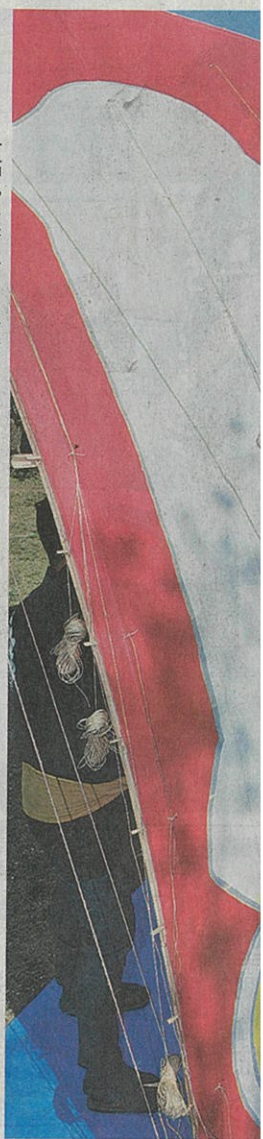


子安町の区



十帖風に糸目付けの作業をする子安町風揚げ会のメンバーたち―浜松市東区子安町の子安神社で

ウホ！あふれる「ドツッシリ感」



ゴリラの絵を制作した戸田健矢さん―浜松市南区法枝町の浜松いわた信用金庫本町・瓜内支店で

半身まひの画家戸田さん 南区で油絵展示

左半身に障害がある画家の戸田健矢さん(三〇)は浜松市東区Ⅱがゴリラを描いた作品が、浜松市南区の浜松いわた信用金庫本町・瓜内支店で展示されている。障害者のアート作品を公共施設や店舗に飾る県の「まちじゅうアート」事業の一環で、戸田さんは「自分が知らない人に絵を見てもらえるのはうれしい」と話している。

戸田さんは生まれつき左半身にまひがある。幼いころから絵を描くことが好きで、浜松特別支援学校高等部一年から本格的に絵画の勉強を開始。現在は住宅メンテナンスス業「アイジューコンサルティング」(中区)で働きながら、絵の展示や絵手紙の販売を続けている。今回展示するのは、二〇

一八年から約一年かけて描いたゴリラの油絵。サイヤソウなどの大型動物の絵を得意とし、今回のゴリラは「ドツッシリ感を意識して描いた。これだけ大きな絵は初めてだが、描いていて楽しかった」と話す。原画は現在、県庁に展示されており、同支店にはレプリカを飾っている。

「まちじゅうアート」事業は、障害者の芸術活動を支援するNPO法人・アーツコネクトしずおか(静岡市葵区)が県の委託を受けて実施。障害のある作者から作品を借りて県内の企業や店舗に有償で貸し出し、レンタル料の三割を報酬として作者に払っている。

戸田さんの作品は四月末まで同支店に展示された後、可美(南区)、篠原(西区)、志都呂(同)の各支店でも巡回展示する。(木谷孝洋)

組曲、ドビュッシーのバイオリンソナタなどを演奏。平和への願いを込めた「アヴェ・マリア」で締めくく

NIE

教育に新聞を

「うな博士」講師 取材手法を指導

西遠女子学園生に

浜松市中区の西遠女子学園で十一日、取材やインタビューの方法を学ぶ講座があり、「うな博士」として本紙で「遠州歴史のどびら」を連載するNIEコーナーディネーターの山崎章成さんが講師を務めた。

同学園では五月十二日に太平洋戦争で亡くなった生



うな博士として、生徒たちに取材のノウハウを伝える山崎章成さん(左)―浜松市中区の西遠女子学園で

20曲 優雅に披露

吹奏楽部演奏会

浜松日体中学・高校(浜松市東区)吹奏楽部の定期

徒や教員を悼悼する「殉難学徒慰霊式」を予定。生徒たちは事前に調べたり、体験者に話を聞いたりして文章にまとめることになっており、入学したばかりの中学一年生三十四人にノウハウを知ってもらおうと山崎さんを招いた。

山崎さんはかぶり物と白衣、しっぽを身に付けた「うな博士」の姿で登場。取材では全体を見渡す「鳥の目」、詳細を見る「虫の目」、流れをつかむ「魚の目」が必要になると強調し、インターネット上の無料百科事典「ウィキペディア」を全面的に信用しないことなど注意点も示した。祖父が爆弾の直撃を受けて亡くなったことなど身の上話も交えた講義に、生徒たちは真剣な表情。小野江環さん(三)は「鳥の目、虫の目、魚の目の話は分かりやすく勉強になった。インタビューするとき参考にしたい」と話した。

(高橋雅人)